

## 「6・5全国総がかり大行動」各地で開催 国会周辺には4万人が集う！

「6・5全国総がかり大行動」が6月5日、全国各地で展開されました。東京では、国会周辺3会場に学生・市民・労働者ら4万人が集い、民進、共産、社民の野党各党の幹部らも駆けつけ、参加者と一体になり、参院選の改選1人区での候補者一本化などの成果をアピールしながら支持を訴えました。参加者たちは「選挙に行こう」「政治を変えよう」とシュプレヒコールを上げました。

冒頭、山口二郎法政大教授が「選挙の争点は憲法にある。後戻りのできないところまで来ている」と訴えました。国会前では、参加した日本共産党の山下芳生副委員長は「ここに立つたびに、野党の共闘の中身が前進しています。バラバラだった野党がここまで歩みを進めることができたのはなぜか。暑い日も寒い日も、雨の日も風の日も『安保法制廃止』『野党は頑張れ』『野党は共闘』と声を挙げ続けていただいた皆さんの世論と運動があったからにはほかなりません。皆さんのこの声に、私たちは背中を押され、私たちの間にあった壁が壊れました。ありがとうございました」と話しました。また、民進の枝野幸男幹事長は「全ての1人区で安倍政治と一騎打ちでたたかう構造を作ることができました。しかし、一騎打ちの構造を作るのが目的ではありません。われわれが問われているのは、安倍政治を止められるのかどうか。結果をもたらさなければいけません」と学生・市民と野党の連帯を呼びかけました。

会場には「だれの子どももころさせない」「戦争いくより選挙にいこう」などのプラカードも掲げられました。参加した友人と一緒に参加した学生は「戦争には絶対に反対です。選挙権が18歳に引き下げられ、重要な選挙に投票できるのは良かった」と話していました。



## 沖縄 県議選で県政与党が過半数維持

5日に投票が行われた沖縄県議会議員選挙は、翁長知事を支える県政与党が議席を増やし、県議会の過半数を維持しました。これを受けて、翁長知事は「大勝利だ」と述べ、引き続き政府にアメリカ軍普天間基地の移設計画の断念を求めていく考えを示しました。

各党の獲得議席は、無投票での当選を含めると、共産党が1議席増やし6議席、社民党も1議席増やし6議席、沖縄社会大衆党も1議席増やして3議席、その他諸派、無所属も含め、翁長知事を支える県政与党が3議席増やし、27議席を獲得し、県議会の過半数を維持しました。

今回の選挙は、アメリカ軍関係者が女性の遺体を遺棄した疑いで逮捕された事件を受けて、アメリカ軍の基地・専用施設が集中する沖縄の現状をどう改善していくかが最大の争点となりました。

翁長知事は「選挙結果は、普天間基地の移設を阻止する私の公約が一定程度、県民から理解をいただいたものだと思っており、大勝利だ。アメリカ軍関係者による事件が起きたなかでの勝利は、保革を乗り越えて名護市辺野古に基地をつくらせないという県民の思いであり、今後もしっかりと取り組んでいきたい」と述べ、引き続き政府に計画の断念を求めていく考えを示しました。

## 各地のとりくみ

### 埼玉 「輝け!日本国憲法のつどい」を開催

さいたま市で5月19日、安倍政権が狙う改憲の危険性をつかみ、ストップをかけようと、「輝け!日本国憲法のつどい」が開かれました。主催は埼玉憲法会議。つどいには250人が参加しました。立憲主義を守る大学人の会@埼玉の聖学院大学教授の石川雄一郎氏が、「失言・暴言から考える憲法と政治」と題して講演しました。講演で安倍首相や自民党国会議員の憲法にかかわる発言を紹介しました。そして、個人の尊重を捨て、憲法を尊重する義務を国民に押し付ける危険性を指摘し、「安倍政権は、今の憲法の根本的な価値観に手をつけようとしている」と厳しく批判しました。

その後、参加者がステージに上がり、リレートーク。日本共産党の伊藤岳埼玉選挙区候補は「今の憲法が古くなったのではなく、憲法の本質や条文が政治に生かされて来なかったのではないのでしょうか。参院選では憲法を生かす政治実現を掲げてたたかいぬきます」と語りました。そして、劇団前進座の芝野明日香さんのコールに合わせて、参加者全員で「命を守ろう」「平和を守ろう」と声を上げました。

戦争法廃止を求める「オール埼玉総行動」実行委員会の贄田教秋事務局長が、5月29日にさいたま市の北浦和講演で行われる集会とデモへの参加を呼びかけました。(同行動は約1万人が参加し、大成功しました。)

### 愛知・日進 安保法制を考える集いに300人

5月20日、愛知県日進市で、「安保法制を考えるつどい」が開催され、300人が参加しました。主催は日進市、長久手市、豊明市、東郷町などの党派・会派を超えた議員も参加する実行委員会です。冒頭、池住義憲実行委員長があいさつし、「憲法9条は変わっていないのに、安倍首相の手によって戦争ができる国になってしまった。退陣させるために何をすべきか考えていこう」と訴えました。

つどいの講師は、東京新聞論説委員の半田滋氏。「安保法制は平和の法律ではない。東アジアを不安定にさせる天下の悪法。参院選で野党が勝ち、与党にダメージをあたえ、有名無実化させよう」と話しました。

参加した女性は「まだ知らないことが多いが、知るたびに安倍首相はイヤになる」。男性(62)は「選挙で政治が変わることが現実味を帯びてきた。がんばりたい」と述べました。

会社帰りに参加した男性(41)は、「息の長いたたかいをして、今後も安倍首相のような政治家を出さないようにしなければいけない」と語りました。

### 高知 憲法アクション選挙勝利に向け集会

高知憲法アクションは5月19日、高知市で参院選挙勝利に向けた集会を開き、70人が参加しました。県労連の田口朝光委員長は「4野党がまとまり政治を動かし、大西候補を必ず国会へ」と訴えました。

19日で結成1年となる平和と民主主義のための高知県学生の会(PEDAL)の横川和音さんは「今の学生は何百万もの奨学金という借金を抱え、就職先もない。安倍政権は戦争できる国の推進だけでなく、市民の暮らしを破壊しようとしている」と語りました。

集会後、「政治を変えるのは誰だ。あなただ」などと唱和し、繁華街を訴え歩きました。

## **今月末までの2000万人達成目指し、 各地で戦争廃止署名行動**

### **和歌山 海南市で2000万署名目標達成**

2016年5月22日、和歌山県海南市で戦争法廃止を求める2000万署名の同市の目標が達成されました。

目標1万に対し、「9条守れ『戦争法』廃止海南海草共同センター」の5月12日代表者会議で1万28人分が確認されました。最終盤には朝、昼、夕方の1日3回の統一行動を10日間連続で実施し、さらに1日2回の統一行動を3日間実施。同センター加盟団体もこれに応え団体目標を達成するなど、全体が大きく盛り上がりました。

同センター事務局の藤井穂住さんは、「しんどいときもあったけど、物語もいっぱいあった。

『私は保守的だけど戦争はぜったいあかん』と署名した人や、いっしょに近所を回ってくれた人などあげればきりがなし。戦争法に対する市民の怒りと署名参加者のエネルギーが一致して目標が達成された」と話しました。

### **青森 「政権の暴走を止めないと」と署名**

戦争いやだ、憲法守れ県民の会(憲法ネットあおもり)は23日昼、青森市内で戦争法廃止を求める2000万署名に取り組み、「安倍首相は参院選で勝利し憲法を変えると行って暴走している。なんとしても止めないといけない」と訴えました。

訴えに足を止めた80歳の女性は「安倍の政治は戦争への危険な道を堂々とつくっている。力を合わせて安倍を引きずりおろさないとダメだ」と話しました。また、68歳の女性は「参院選で野党統一候補を勝たせて、政権を変えたい」と、署名行動を激励してくれました。

30分の署名行動でしたが、21人の署名が集まりました。

### **香川 「立憲主義を守れ」と香川革新懇**

高松市で19日香川革新懇が戦争法廃止の2000万署名に取り組みました。参加者がリレートークで署名を呼びかけました。安保法制に反対するママの会@香川の湯浅文代さんは「貧困のために若者が戦場に送られることがあってはならない」と強調しました。後日、野党統一候補となったたなべ健一氏(5月27日、市民連合@かがわと確認書調印)も参加し、「香川でも統一候補を誕生させよう」と訴えるとともに、2000万署名への協力を呼びかけました。

署名に応じた高松市の85歳の女性は「兄が戦争にとられるなど経験者として、安倍さんのやっていることは信用できません。戦争法を廃止してほしい」と話しました。